

吉田一穂詩集

底本は、岩波文庫、加藤郁也氏編二〇〇四年版であり、版型をA5に拡大し、さらに読みやすさを考慮したため文字の配置、大きさ、ルビなど、若干の変更を加えた。

目次

少年	古いオルゴールの歌	海郷	泉	曙	母	薔薇篇													
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
18	17	16	15	14	13	11													
鯨	都市素描	六月	五月	酒神	千一夜	声	嵐	後園	暦	トラピスト修道院	晩課書	雪	霧						
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19						

東へ	洪水前	天隕	暗星系	冬の花	VENDANGE	鎮魂歌	Delphinus	魚歌	挽歌	真珠	海市
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
50	48	47	45	43	42	40	38	37	36	35	33

海鳥	業	鴉を飼ふツアラトウストラ	エミグラント	狼	無明	荒野	悲心	亜細亜紀	鷺	土地	榆	北海	死の馭者
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
70	69	67	65	63	62	61	59	59	58	57	56	54	52

春	故園の書	故園の書	白鳥	咒	砂	泥	岩の上	稗子伝	非存	暗約	無の錘
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
87	87	85	77	76	75	74	73	73	72	71	71

鷺	石と魚	マクベス夫人	影の劇場	海の族	雲雀を揚げる夕	内部	薔薇	家系樹	空	冬	秋	夏
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
130	121	115	110	107	105	104	102	100	95	93	91	89

非遠近法	空中楼閣	みるめ・かぐはな	夜の座	拾遺	新約	荒地	Z.5潜水艇にて	現実の底辺	種蒔く人	地下鉄のある街	愛の章
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
181	179	177	175	173	167	163	157	153	144	140	135

樹下	北の門	道産子	反世界	火の記号	室内叢林	無の火	零時	輪の外	吹雪の中の呼び声	ネガ・レアリテ	未生の花
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
211	209	206	202	200	198	195	193	191	189	187	185

吉田一穂詩集

薔薇篇

母

あゝ麗はしい距離^{デスタンス}、
つねに遠のいてゆく風景……

悲しみの彼方、母への、
探し打つ夜半の最弱音^{ピアニツシモ}。

曙

透蚕すきじは眠る、
影ほの白し。

一線ひとすぢの丘の曙、
山々の遠き風嘯。

泉

落葉に径も埋れたり。

村邑の灯は乏しきかな。

月かげ負ひて来るものに、

これの泉はあふれたり。

海郷

病みて帰るさの旅の津軽海峡。

(月は傾く……)

ふる郷の砂浜に秘めし貝の葉の、
はるかな想ひ乱れ、航跡、青く、
光り消ゆ魚城のまぼろし。

月は今、沈む、
帰るさの船路に。

古いオルゴールの歌

窓をコツ／＼叩く細い指先。

カサコソ落葉ふむ小さい跽音。

ころころころと　こほろぎが

どざうのかげで　いとぐるま

ひいてりやのぞく　おつきさま

クゝクゝ、簷ひさしの寐鳥の動く影。

チラリと見える白い歯並。

少年

蟲の約束に林を渡る啄木鳥よ。

(鴨は谿の月明かりに水浴してゐる)

参星オリオンが来た！ この麗はしい夜天の祝祭まつり。

裏の流れは凍り、音も絶え、

遠く雪嵐が吼えてゐる……

落葉松林からまつばやしの罨やしに、何か獲物が墮ちたであらう。

弟よ、晨、雪の上に新しい獣の足跡を探しに行かう。

霧

木の間を透かし
夜におとなしき獣けものよ。

顫へるその白いきやしや繊素な手に
像ものの間隔を計るしずく涓滴……

わたし私は母の遠い忘却にかへり
蠟燭の輪に描く古い夜語り。

雪

幼児をきごの頬ほに消えかゝる薄明ツワイ・ライト。
(むかしく………)

揺籃スレーヴはきしみ、

暖炉ストーヴは燃え、

懶ものうげに揺れる洋燈ラムプ。

私は、終夜、遠方に、
静かな妹を見送る。